

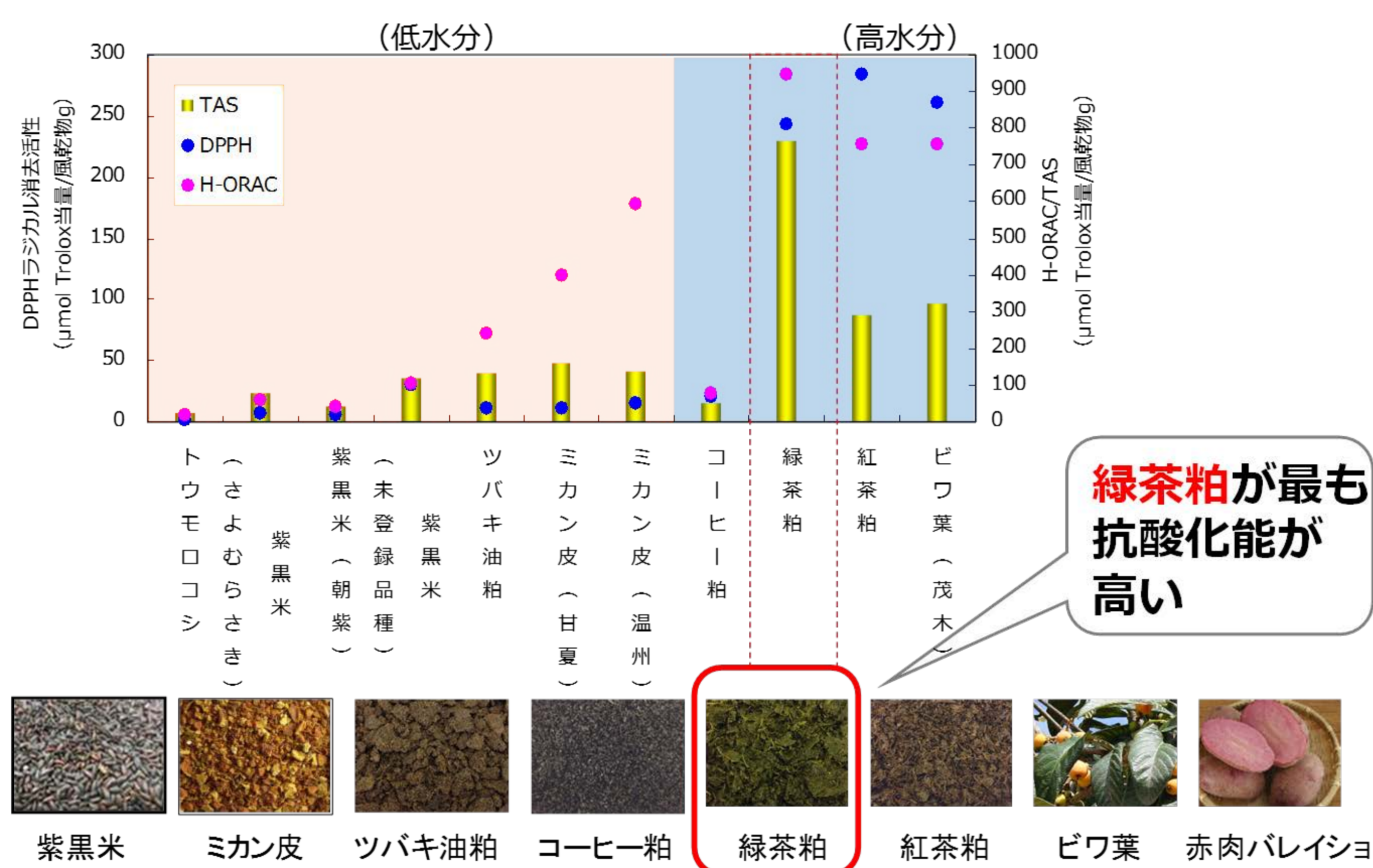
暑熱期における肥育豚の肉質に対する緑茶粕添加飼料の効果

長崎県農林技術開発センター 畜産研究部門

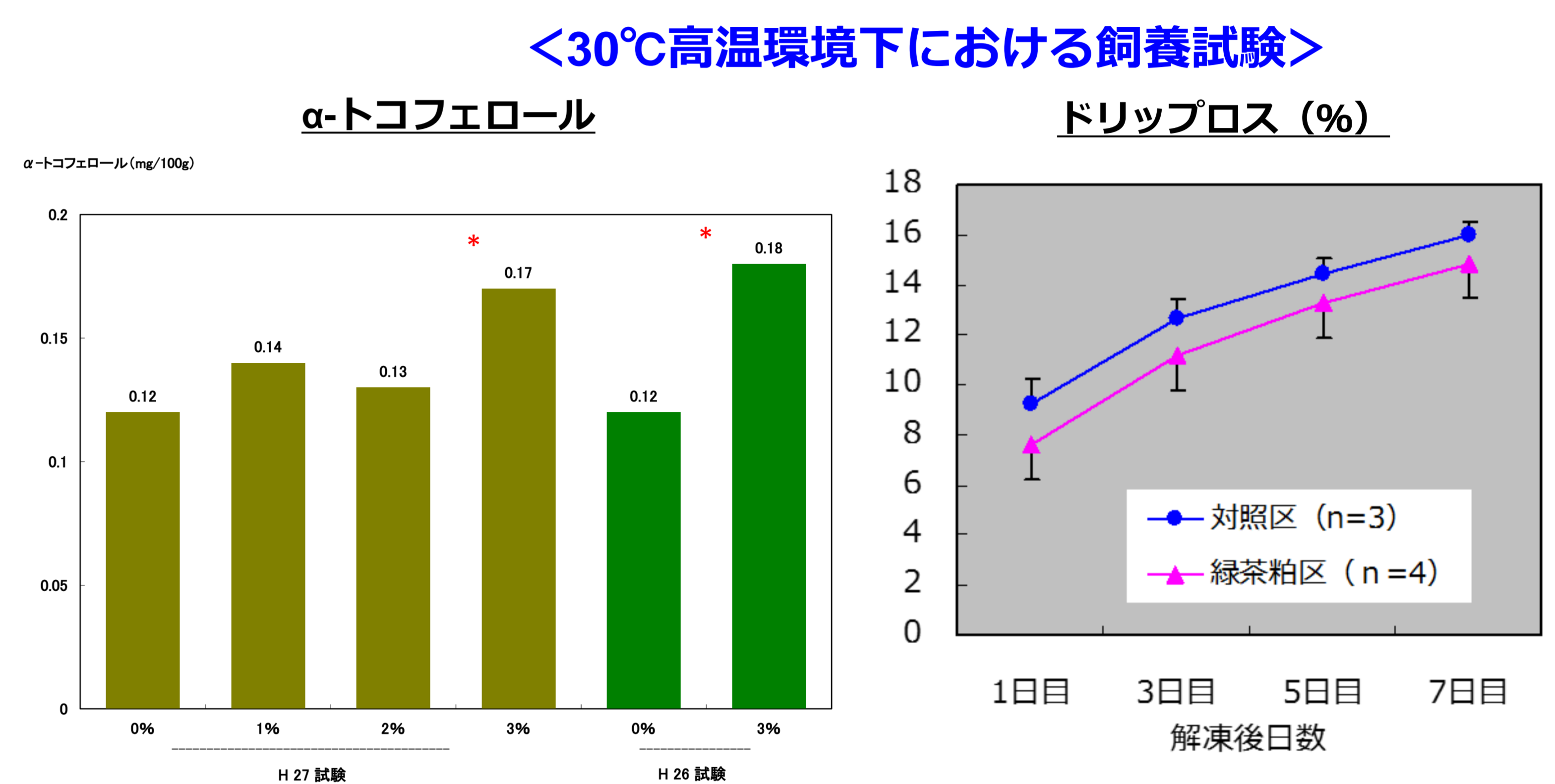


低・未利用資源の中で、**高い抗酸化活性**を示す**緑茶粕**を、飼料に**3%**添加して**暑熱期**の肥育豚に給与すると、飼養成績や枝肉成績に悪い影響を及ぼすことなく、ロース肉の**ドリップロス**(肉汁の損出)を低下できることが明らかとなりました。

1 低・未利用資源の抗酸化活性



2 緑茶粕の最適な添加割合

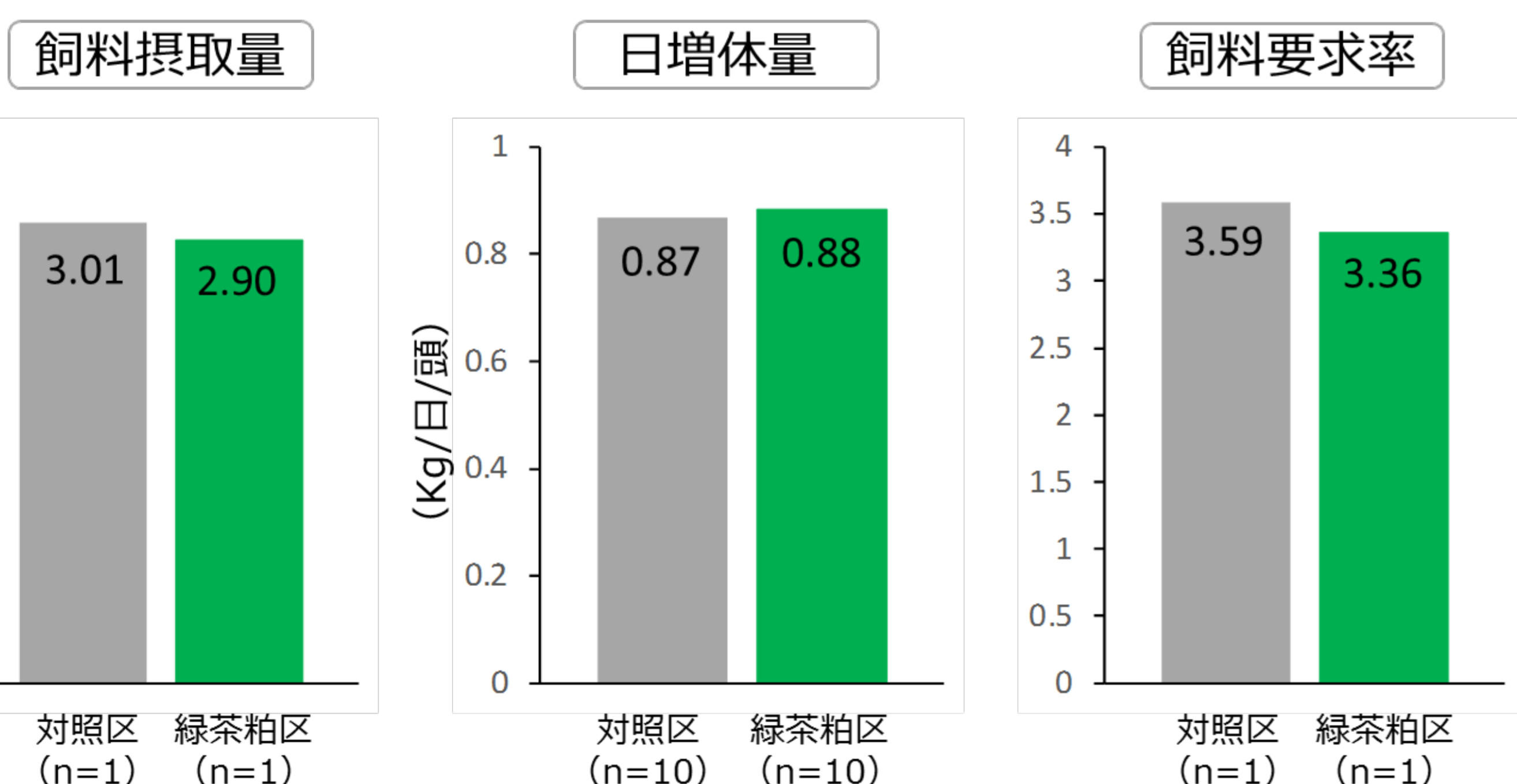


低・未利用資源の抗酸化活性を測定した結果、**緑茶粕**が最も高いことが明らかとなりました。

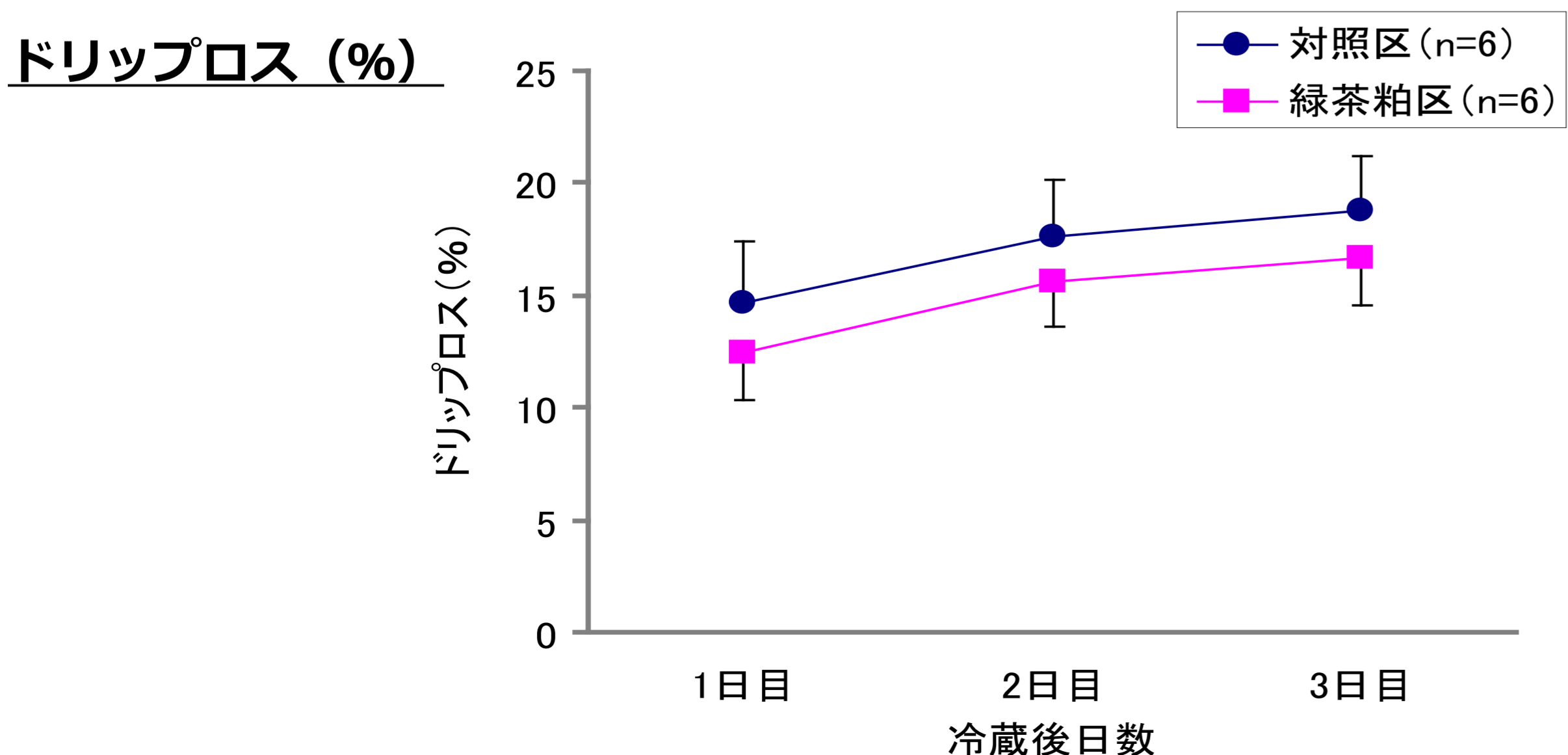
緑茶粕の最適な添加割合は**3%**であり、ロース肉のドリップロスを低下できることが確認されました。

3 生産現場における実証試験

飼養成績



暑熱期の肥育豚に**緑茶粕**を添加した飼料を給与すると、飼養成績や枝肉成績に悪い影響を及ぼすことなく、ロース肉の**ドリップロス**を低下できることを**生産現場**で実証しました。



- 普及・社会実装への道筋
- 学会等で研究成果を公表するとともに、研修会や広報誌への掲載を通じて養豚農家に情報を伝達する。
- 飼料会社に緑茶粕の飼料化を働きかけて、利用促進を図る。